

問題発見技法 課題2

【課題】

雑誌の特集記事を読んで、アイデア・意見・ポイントなどをピックアップし、一つにつき1枚の紙切れに記入する。KJ法を用いてA型図解として纏める。

【対象記事】

対象とするのは「週刊東洋経済」や「アエラ」の各号の特集記事など。例えば、

週刊東洋経済 2007年1月20日号 「財布の中の見えない『お金』ポイントカード大氾濫」

週刊東洋経済 2007年3月10日号 「著作権は儲かる」

週刊東洋経済 2007年4月7日号 「世界の空は変わった。信頼できるエアライン」

週刊東洋経済 2007年5月12日号 「ヤマダ電機 量販の王」

アエラ 2007年4月9日号 「地球を救うゾ、ちょいゴア企業」

アエラ 2007年4月16日号 「松坂は大丈夫か？プロ野球『裏金』全舞台」

など。なお、「AERA」については、図書館オンラインDBの「聞蔵II」から本文を閲覧可能、「図書館」「情報学部事務室」にも所蔵。「週刊東洋経済」は「図書館」「情報学部事務室」「国際学部事務室」で閲覧可。

【注意点】

紙切れを纏めるときは、トップダウンではなくボトムアップで行うこと。本当に似ている紙切れ同士であると考えて纏めていくこと。全体を窺って纏めてしまうグループが非常に多いので注意（それはKJ法ではないので、課題達成とは認めない）。

【レポートの書き方】

- ★ A4用紙のレポート（ワードなどで作成）とA型図解について、PDFファイルに変換して、それぞれ提出すること。レポートについては、以下の書き方に沿うこと。
- ★ 表紙 … 「対象とした記事についての議題・議事テーマ（KJ法によって最終的に付けられたタイトル）」「会議日」「グループ名、及び参加メンバー全員の学籍番号・氏名」
- ★ 次ページより以下の4つについて書くこと。
 1. はじめに … なぜその議題テーマを話し合うのか、動機・目的を書く。
 2. A型図解の解説 … KJ法を行って得られたA型図解について、どのようにして、その図解が得られたのか。纏めた手順・方法、及び、A型図解の解説。
 3. 考察・結論 … 2の図解、及びKJ法を実行することによって、何が得られたのか。どんな嬉しいことがわかったのか。今後の展開や将来展望、及び、議論で足りなかったこと、やれなかったこと、今後の課題についても書く。
 4. 参加メンバー毎の意見・コメント（1人3行以上5行以内。感想不可）
 - 4-1：議長 a0P01000 ○△×男
 - 4-2：評価者 a0P01999 ◇□☆子という形で、全員書く。
- ★ A型図解 … これのみA4用紙でなくて良い。上記レポートとは別に任意の大きさのPDFファイルとして作成し、提出する。

【提出期限・提出先】

- ★ 提出期限：6月6日（水）18:00必着
- ★ 提出宛先：khotta@shonan.bunkyo.ac.jp 宛てにレポート(PDFファイル)及びA型図解(PDFファイル)を添付して出す。その際、メンバー全員にBCCメールとして送ると良い。Subjectには「問題発見技法 課題2 グループ〇〇」と書くこと。